

1年生「産業社会と人間」で外部講師講演を行いました。 それぞれの将来を考える企画「ライフプラン」授業を実施しました。

1月26日（木）、「産業社会と人間」の授業でソニー生命のライフプランナーを講師としてお招きし、『ライフプラン』授業を行いました。

各クラス6～7人の班を作り、各班に1名ずつライフプランナーが付き、実際にライフプランニングを御指導いただきました。

シミュレーションソフトを活用して、具体的な人生設計を立案していきます。

まず、何歳で結婚し、何歳で何人の子どもを授かって、いくらの家や車を買って…などの具体的な今後の行動や「人生に一度はやってみたいこと」などの将来の夢や計画を実現するためには何がどのように必要なのかを理解します。

そして、設計したものをシミュレーションし、赤字になってしまったら、どのように改善すればよいのか、プランナーの御指導のもと、班で話し合います。

最後に、改善されたライフプランを各班で発表しました。

『ライフプラン』授業は中日新聞の取材を受けました。

(中日新聞 1月27日(金) 尾張版 掲載 許諾番号 20170130-18969)

ライフプラン発表の様子



各班でライフプランを改善中です。



出産や住宅いくら？

稲沢 杏和高生、人生設計学ふ



F.Pの意見を参考に、住宅のチラシを見ながら人生設計を考える生徒たち。稲沢市祖父江町一俣宮西の杏和高で

から人生設計を学ぶ「ライフプランニング授業」が二十六日、稲沢市祖父江町の杏和高校であり、一年生約二百三十人が参加した。一年生の授業の一環で、十年前から一回、ソニー生命保険のF.Pの社員が講義している。講師の一人の水藤茂雄さん(右)は担当した六組で「ライフプランニングとは人生の計画を立てること。人生を山登りに例えるなら、山の形や高さによって準備が違ふ」と説明し、人生設計の大切さを訴えた。生徒たちはグループに分かれ、二十八歳の夫婦が中心の仮想家族をイメージ。出産する子どもの数や進路、住宅や自家用車の購入など思い描く家族の計画を表に書き込み、費用と必要な収入のバランスなどを学んだ。住宅や車のチラシを見て買いたい家や車について和気あいあいと話し合った。

愛敬奈佑さん(左)は「家の値段がどのくらいか考えたこともなかった。将来を見つめるいいきっかけになった」と話していた。(花井康子)

《生徒の声》 ～講演についての感想～

- ライフプランナーの、若い頃から夢・目標を決めておくこと、「お金は貯金できるけど、時間は貯金できない」という言葉を聞いて、1分1秒の時間を大切に生きていかなければならないと思いました。
- 今の自分の選択が今後の未来に大きく関わってくるので、ライフプランで学んだことを活かして、物事を慎重に決めたいと思いました。

